

2011.10.24

## 研究会員の声 2

これらは責任のとれない立場からの生の声を記録したものですので、誤解などあるかも知れません。それを承知でお読みください。

○ 全く予言通り、ついに、金目の物を孫会社（新設・日立造船コンポジット）へ移し、負債だけ残した NBL 社の破産手続きに入った。これにより、技術の大成を信じて研究者・学者が資金を持ち寄った資金（株・貸金）等を HZ 社はほぼ全部（1 億数千万円）かすめ盗る行動の最終段階に入ったわけだ。

○ 振り返れば、2010 年春から旧経営 NBL と HZ は”同棲”を始めたが、しばらくすると生活費を入れてくれなくなった。やり方は、払うと直前に条件をつけたり、難癖の類で”首を絞める”である。やむを得ず、旧経営 NBL 社は支援グループから緊急で生活費を借りた。これでは結婚できないと文句をいうと、紳士の H 田常務執行役員は謝り、2010 年の夏、ホテル大阪ベイタワー内でお手討ち式を開いてくれた。しかし、それもつかの間、すぐにまた”首絞め”が始まった。H 田常務執行役員からは、もうお会いできないとの電話をもらった。これから”ヤクザ本体”が動き、乗っ取りが始まるよ、との意味合いである。

○ この乗っ取りプロセスで示した HZ の手口・戦法は唯裁判戦法で、相手の弱みにつけ込み、相手が音をあげるのを待つ。資金に物をいわせてお金を払えば論理を作ってくれる便利な従金無論理弁護士を雇い、裁判を長引かせて相手の弱るのを待つ。

○ 株主総会で開示すべき資料を要求すると、「そんなことに答える必要はない、裁判所の命令が在れば従う」、で逃げる。「文句があるなら裁判で争ってくれ」である。虚偽・都合の悪い資料・データは「あかんべー」で隠すというやりかたである。

○ 中小は大きな声をあげられないという前提の”幼児わいせつ的”行為が、今回は”想定外”で騒がれ、舞台の上に上げられたが このまま予定通り、破廉恥な欲望を完遂する動きである。

○ 2010 年 5 月に NBL が日立造船経営になってから 1 年余りたったが、約 30 人いた古くからの会社関係者は 4 人しか残っていない。彼らに聞くと、「軍手は自前になった」、「ビス 1 本必要なところ、近くのホームセンターで 2 本買って怒られた」、「100 円ほどの部品 1 個を近くのホームセンターで購入したいといったら、堺工場（25km）へ取りに行くようにいわれた」とか珍妙なことが多く、それでけんかして辞めた人も多い。技術継承もうまくで

きていないのに加えて、真面目に開発に取り組んでいるようには見えない。

○ 最先端技術をようもっていかんかったので、継承・開発が出来ていない。形だけは持って行ったように見えるかも知れないが、実は Dr.Nishino の 40 年の開発歴の 10 分の 1 も持って行けてないんや。よう理解せんかったのやから仕方がないけど。結果、Dr.Nishino を追い出しても自分らでできると報告・判断したところが数十億円の実損やな。

会社乗っ取りは準備万端であるが、公開質問状によって技術の底も知られてしまったので、中古技術を最先端技術と称してファンドに売り逃げすることが困難になってきたらう。ペテン師ならやるかも知れないが、情報開示が不十分でど素人ファンドといえども後で訴えられる可能性が残る。この点で、まったく採算が合わなくなってしまった。

Dr.Nishino はもう次世代の FRP 高圧管製造装置を受注しているので、旧世代では競争にならない。

○ この集団にはモラルもコンプライアンスもない。自分たちだけ儲かればいいとする独り占め集団はまさに反社会的集団である。ベンチャを騙して苦しめ、横取りする”ヤクザ集団”に対して我々はまだ声を上げる勇気と智恵を持っていたが、これではベンチャが育たない。

○ Dr.Nishino の言：ベンチャが新たな産業を創成する米国に対して、日本ではベンチャは大企業のエサになって食われる一方、企業は海外生産を余儀なくされ、仕事も技術も流出する。これでは、日本の行く末が思いやられる。幸い我々の技術を評価してくれ、世界的大企業が支援してくれる体制ができてきたので、裁判しか聞く耳を持たない先方に物申す時期がきた。140 億円裁判は、世直しである。

○ 後記：丁度、日経（2011.10.23）に「起業が割に合わない国」の記事が出ている。堀場製作所の創業者も嘆いておられる。公開質問状はニュースにはならなかったが、株価はすぐに連動下落し、HP アクセス数はやや遅れて急増し、もっと遅れて記事の後押しもしたのであろう。これからの舞台展開をご覧下さい。